

# パブリックコメントで寄せられた その他のご意見に対する見解・対応(案)

(第4回宮城県における復興祈念公園基本構想検討調査有識者委員会 資料)

平成26年3月7日



国土交通省 東北地方整備局 建政部

●基本構想全体について

ご意見	見解・対応(案)
○公園計画地はまだ私有地であり、「人の土地で何を勝手なことをしてるんだ。」という印象がある。せめて、その旨注釈を付けてほしい。	・いただいたご意見を踏まえ、「4.公園検討区域」の項に注釈として「当該区域は、現時点では、ほとんどが私有地である。」と追記しました。
○地方都市として身の丈にあった公園施設を望む。次世代に負担のかからない様に規模を小さくした方がよい。	・公園施設の規模や整備内容については、今後、基本計画等において検討して参ります。
○宮城県全体としての復興祈念であるならば他の地区を含めた公園にしたほうが良い。	・本構想における復興祈念公園の検討区域についてはあくまでも南浜地区となりますが、「3.基本方針(2)被災の実情と教訓を後世に伝える」にあるとおり、当公園を中核とした宮城県内の復興祈念公園のネットワーク構想についても検討してまいります。
○地域の住民が「公園」の文字から想像できるものは、かつての雲雀野公園程度のもの。今後に出てくるものは、もっと荘厳なものだと印象付けるべき。	・「公園」に対するイメージは人それぞれかと思いますが、公園は各地の平和祈念公園等に見られるように追悼・伝承のための機能も持つものであり、今後基本計画の検討にあたり配慮させていただきます。
○この場所を本当の命の教育の場所と考えているのか、ただの観光地にしたいのか、いったいこんな狭い敷地に全部詰め込んで、何をしたいのか教えてほしい。	・この公園ではあくまでも追悼と鎮魂の場を構築することが基本であり、ただの観光地にすることは考えておりません。今後も追悼と鎮魂の場とすることを前提とした整備を検討して参ります。
○この公園をどのように利用してもらおうのか、まずはこのシュミレーションが必要ではないか。	・基本構想ではご指摘の内容は記載されておりましたが、いただいた来訪者への対応についてのご意見は今後の具体的な検討段階での参考とさせていただきます。

●被災の実情と教訓の伝承について

ご意見	見解・対応(案)
○二度と震災の悲劇を繰り返さない様にこれからの世代に語り継いでいける施設を建設してもらいたい。	・教訓の伝承の場については、5.空間構成の方針(4)空間の骨格1)教訓の伝承の場の項に、元の街路形態や震災遺構を公園デザインに取り入れると記載しておりますが、教訓の伝承の具体的なあり方は今後の重要な検討課題であることから、来年度以降の基本計画の検討にあたっての課題の一つとし、次年度に向けた報告事項とさせていただきます。
○公園予定地にも土台を残すのみの街の跡が見え隠れしている。そういった人々の生活がしのばれるものも震災の記憶を伝えるものとなると思う。	
○伝承館の建設は必要と考える。伝承館には東日本大震災に関する資料が閲覧できる施設や地震や津波を疑似体験できる施設、語り部の体験談を聞ける施設などを設けてはどうか。	
○震災前の街並み住居構造物などを正確なミニチュアモデル等でビジュアル的に再現してほしい。	
○門脇小学校の惨状を視覚的体感的に伝える為に現状校舎の一部(出来れば全体を)を移築保存し、ある程度の部分は原寸大のレプリカで再現して被害の実体験化を試みてほしい。	
○被災市街地のアーカイヴミュージアムは、岩沼市の「千年希望の丘」と共に創設されたミュージアムのもと、同じコンセプト、設えと考えてよいか。	・被災市街地の跡をどのように公園計画に反映していくかは、今後基本計画段階で検討してまいります。
○「宮城県内の復興祈念公園のネットワーク」とはどういったものか。	・宮城県において検討している、南浜地区の復興祈念公園を中核とする宮城県内の復興祈念公園のネットワークですが、具体的な整備内容等については現在検討中です。
○史跡は現状維持が最も好ましい。善海田稲荷社と、湿地帯を避けた形での丘の造成が好ましい。	・空間配置方針に示した図は、空間の考え方を示したもので、具体の丘の位置や折りの方向を確定させるものではありませんが、いただいたご意見を踏まえ、その旨注釈を追記しました。

●来園者の安全の確保と防災について

ご意見	見解・対応(案)
○「式典広場」を防災教育の場として活用出来ないか。多くの方が現場を訪れ、自らも現場で訓練を重ねる事により、防災の意識を高め、次の災害に備える事が鎮魂へつながると思う。	・式典広場を防災教育の場として活用するというご意見は、今後の具体的な検討段階での参考とさせていただきます。
○震災対応の危機管理だけでなく、通常の安全対策にも十分配慮した施設になることを望む。	・基本方針には災害時の安全性確保を中心に記載しておりますが、来園者の安全対策は今後の重要な検討課題であることから、来年度以降の基本計画の検討にあたっての課題の一つとし、次年度に向けた報告事項とさせていただきます。

●多様な主体の参画・協働について

ご意見	見解・対応(案)
○ボランティアやNPOに関わってもらい、市の負担が軽減することを望む。多様な世代が維持管理に参加できる体制を整備してほしい。この公園を造ることを、市民の『総動の手』に委ねてほしい。	・多様な主体の参画・協働のあり方は今後の重要な検討課題であることから、来年度以降の基本計画の検討にあたっての課題の一つとし、次年度に向けた報告事項とさせていただきます。
○防災減災教育の一環として、児童生徒が公園の維持管理に係わるカリキュラムを設けてほしい。	

●地域の自然環境について

ご意見	見解・対応(案)
○地域本来の植生と風土を大切に設計を進めて欲しい。本来の湿地の環境を生かしたより自然に近い公園としてもよいのではないか。メダカや銀ヤンマの飛ぶ自然をとり戻してほしい。現地の植生等を調査し、それを踏まえ、防潮林の植材も市民が学び選べるようにしてほしい。	・地域の自然環境の把握は今後の重要な検討課題であることから、来年度以降の基本計画の検討にあたっての課題の一つとし、次年度に向けた報告事項とさせていただきます。なお、海岸については検討区域外であり、公園の範囲に海岸を取り込むことは考えておりません。
○現湿地帯の植生、生物を調査し、湿地帯の役割、特性など現状を把握してほしい。また、生物多様性を数値化し経済効果を計ることを検討してほしい。	
○海浜植物群落が残るひばり野海岸の現在と将来の環境を見据えて、公園の範囲に海岸を取り込んだ形で整備すること、立地の自然環境の把握と保全につとめることを検討頂きたい。	

●門脇小学校について

ご意見	見解・対応(案)
○門脇小学校の建物は是非残して欲しい。維持費の捻出が難しいのであれば、一部のみを保存することや、期限を設けること、被災していない施設を活用することなども検討してほしい。	・門脇小学校の保存については、市で具体のあり方を検討しているところであり、いただいたご意見はその検討の参考とさせていただきます。
○門脇小学校は、地震・津波・火災の3つの被害の痕跡が一目瞭然であり、児童・地域住民の避難の様子も物語っている。事実を後世に伝えるためにも、被災した門脇小学校舎を震災遺構として、避難経路を辿る動線の中に加えて頂きたい。	

●その他

ご意見	見解・対応(案)
○国内外から受けた支援を再確認するため、支援のメッセージを効果的に伝えてほしい。その一案として返還された「漂流物」をエピソードなどを交えて展示してほしい。	・いただいた公園に設置すべき施設や整備手法についてのご意見は、今後の具体的な検討段階での参考とさせていただきます。
○体育館、陸上運動場、サッカー場などの運動施設を設けてはどうか。公園内にサイクリングコースを設け、ツールド東北のコースの一部としてはどうか。	
○防災に関わる資機材の展示・販売場、緑化公園、地場産品の販売場などを設けてはどうか。	
○農地を復活させ、野菜・花を生産する場としてはどうか。市民農園などの設置も検討してほしい。	
○人と動物がふれあえる公園、多くの市民がピクニックに訪れる公園、魚釣りなどを楽しめる子どもから大人までがくつろげる公園を望む。	
○日本庭園を取り入れ、春夏秋冬花が絶えることのない様な公園をお願いしたい。	
○聖人掘を何らかの形で残して欲しい。堀があれば涼やかな風が吹き、蛍等も飛び交うと思う。	
○石積みなどその地域にみられる手法を取り入れ、文化に触れ継承できるようにしてほしい。	
○祈りの象徴として、地域の子どもが考えた「にじいろのがいとう」の設置を検討してほしい。	
○地元の業者、地元の木材、石材等の材料を使い、それを全国、世界へ発信して欲しい。	
○自然エネルギーを活用した「アグリファーム」の整備など実験的なことを望みたい。	
○子供たちの活動、表現の場となる広場を是非とも計画に盛り込んで頂きたい。	
○ミニバスなど公共交通網を整備し、市民が負担なく日常的に訪れることのできる場所にしてほしい。	
○東京オリンピックの聖火リレーの国内スタート地点をこの祈念公園としてほしい。	
○現代彫刻の森の整備や、美術博の開催などを検討してほしい。	
○計画段階から、コンペのような形で様々なアイデアを提案していただきたいと思う。	
○公園内に大津波の際に安全に避難できる避難タワーを作る。避難タワーには東日本大震災の時に来襲した高さを表示し、タワーから日和山までは連絡橋で渡れるようにしてほしい。	
○公園と日和山を災害時の避難手段にもすることができるロープウェイで結んでほしい。	
○雇用が生まれ、経済を生み出す施設であるべき。祈りの場として“天国のガーデン”を作り、災害巡礼のメッカとできないか。アートを活用することで、ビジネスパーソンや観光客を呼び込めないか。	
○石巻地方競馬の復活を提案する。老若男女が集まる楽しい空間にすることで地域の活性化に貢献できる。	
○北上川側にマリーナを造り、新しい産業や観光をつくりだすことで、ここで暮らしていく人口がふえる様になりたい。	・マリーナの整備については、市で具体的に検討しているところであり、いただいたご意見はその検討の参考にさせていただきます。
○鎮魂の丘から海を見ると津波の高さを実感できるように、雲雀海岸の新堤防に津波の高さ、旧堤防の高さがわかるように、色分けするなどしてはどうか。	・海岸の防潮堤については、県で具体的に検討しているところであり、いただいたご意見はその検討の参考にさせていただきます。
○日和山からの景観を壊さないよう、海や河口付近の防潮堤の高さの調整も必要と思う。	
○新門脇地区に住宅を造って果たして平気で住めるのか疑問。死者を悼む場所・思い出をつむぐ場所など心落ち着ける場所として整備して欲しい。	・新門脇地区については、これまで地元協議会を立ち上げ、合意形成を図りつつ現在の事業計画を策定してきた経緯があります。市では高盛土道路等の整備による安全安心のまちづくりと合わせた住環境の整備は必要不可欠と考えています。
○なぜ有識者会議の中に宗教の学識経験者が含まれていないのか。	・有識者会議は、石巻市南浜地区における復興祈念公園のそもそものあり方を検討するために設置したものであるため、ランドスケープや都市計画、防災等の専門家や、地域の代表者等をメンバーとしております。また委員以外の様々な方のご意見を伺うため、今回のパブリックコメントのみならず、地域の方々のご意見もヒアリングしております。
○昭和20年代に雲雀野海岸で石巻地方競馬が開催されていたことを、「石巻市南浜地区復興記念公園基本構想案の参考資料」に一言も触れていないのは何故か。	・雲雀野海岸に競馬場が存在した歴史は把握しており、第3回有識者委員会の参考資料の中に明示させていただきました。